

事業所名		セカンドスクールおおぬき				支援プログラム		作成日		7 年		3 月		12 日	
法人（事業所）理念		家庭や学校のみでは解決の難しい課題に介入し、ゆくゆくは当法人の支援が必要ではなくなることを最大の目的とする。													
支援方針		本人の力を最大限伸ばすため、本人の能力に応じたゴール設定を行い、個別・集団訓練を積極的に行っていく。													
営業時間		9 時		0 分から		18 時		0 分まで		送迎実施の有無		あり			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	健康的で安定した生活リズムが整っているうえで、自己でコントロールが行える力をつけていけるよう、本人及び家族支援を行っていく。その他、登校の安定、生活能力の向上、自己管理能力の向上など、個人に応じた目標を個々に設定し、支援を行う。													
	運動・感覚	個々人の運動能力、及び身体機能を評価し、介入の必要性を判断する。介入にあたっては、リハビリテーションの専門職員、あるいは専門職からの指導を受けた職員が、事業所内外での活動の際に適宜支援を行っていく。													
	認知・行動	毎年認知検査を行い、個々人の能力を評価・分析し、能力に応じた目標設定を行い、個別・集団での認知訓練を行っていく。また、保護者との協議のもと、学校との面談を行う。													
	言語 コミュニケーション	日々の活動の中で、トラブルとなるであろう因子をあえて取り除かず、職員の介入のもと解決手段をともに模索し、ゆくゆくは自力での解決能力の獲得を図る。													
	人間関係 社会性	日々の活動の中で、トラブルとなるであろう因子をあえて取り除かず、職員の介入のもと解決手段をともに模索し、ゆくゆくは自力での解決能力の獲得を図る。また、ソーシャルスキルトレーニングを定期的に行い、自分の考えだけでなく、周囲の考えや価値観に触れる機会を作っていく。													
家族支援		支援者、管理者との継続的なコミュニケーションをとれる場を、送迎時や面談の設定などで積極的に作り、情報共有及び連携を絶え間なく図っていく。						移行支援		地域社会での生活に溶け込んでいけるよう、利用頻度の見直しや移行先への情報提供及び移行支援を図っていく。					
地域支援・地域連携		地域資源を活用した屋外活動や、地域人材との接触などを図り、社会に対する適応能力の評価と実践場面の提供を行っていく。						職員の質の向上		全児童のケース会議を毎週実施し、訓練や普段の関わりなどの見直しなどを行っていく。また、研修の参加や勉強会の実施など、支援の質の向上を図っていく。					
主な行事等		休校日や長期休暇の時期を中心に、海水浴場やボーリング場の利用、寺院や博物館などの訪問活動を行っている。													